

登米懷古館刀劍展

雙龍子玉英

令和4年

【期間】 6月9日(木)
~10月2日(日)

※7月27日(水)は、展示替えのため企画展示室を閉室します。

【場所】 登米懷古館

- 入館時間 / 9:00~17:00
(入館は16:30まで)
- 観覧料金 / 大人400円、高校生300円、
小・中学生200円
- お問い合わせ / 0220-52-3578
- 協力 / 宮城県美術刀劍保存協会
/ 東北工業大学ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科猿渡研究室

脇指 玉英(花押) 館蔵



登米懷古館
TOYOMA KAIKOKAN

雙龍子玉英は、江戸時代後期、現在の宮城県登米市中田町石森で活躍した刀工です。

玉英は、鉄砲鍛冶の技術を修め、後に作刀の道に進みます。江戸に出て水心子正秀の高弟・大慶直胤のもとで学び、刀工としての腕を研いて帰郷しました。玉英は博学に加え研究熱心で、刀剣に関する著作*も残しています。また、白雉山（登米市中田町石森）に鍛冶の神様を祀る碑「天目一箇神」を祀る碑を建立しています。玉英の子・直光も鉄砲、刀剣製作の技術を修めて作品を残しています。

本展では、玉英生誕230年、直光生誕200年を記念して、この雙龍子玉英父子の作品を中心にご紹介いたします。この機会に登米市に伝わる刀剣をご覧ください、奥深い刀剣の美の世界をお楽しみください。

*『和漢刀剣談』

